

# 令和4年度 会派調査研究報告書

(視察先1箇所につき1枚)

会 派 名	壮志会	
事 業 名	政策サイクル推進地方議会フォーラム	
事 業 区 分	①研究研修	②調査

## 1 上田市での課題と研修・調査の目的

地方議会改革プロジェクトが主催する「政策サイクル推進地方議会フォーラムキックオフ・シンポジウム」にオンラインにて参加し、今後の上田市議会の運営について議会からの「政策サイクル」を目指す。

## 2 実施概要

実施日時	主催	地方議会改革プロジェクト
令和4年7月29日(木) 13:30~16:00	会場	上田市役所本庁5階 会派室 (zoom 研修)

(例)

### 1 講演

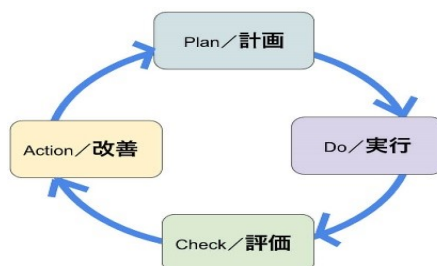
題名「政策サイクル推進地方議会フォーラムキックオフ・シンポジウム」

### 2 講義の内容

#### ①基調講演：「チーム議会が地域を変える」

講師：北川正恭 早稲田大学名誉教授・元三重県知事

- ・従来からの制度や、行動、発想を根本から変えるため、政治改革運動が起こり1994年及び、95年に大革命となり中央集権体制から地方分権体制へと、地方と中央を対等とした。
- ・講師の北川氏が三重県知事当時、民間の経営学を政治や行政に取り入れ、その成果としてトータルからの流れをくみながらPDCAサイクルに尽力された。
- ・行政の起点は予算。政治の原点は公約。公約に対して住民は信用していないと言われている。そのため、具体的に分かりやすく文字と数字で表し、4年のサイクルでチェックすることが大事となる。
- ・執行機関を変えても本当の改革とならない。パートナーである議会も変わることであり本当の改革となる。
- ・殆どの議会が議員定数の「削減」を提唱するが、議員の量的削減ではなく議員の質的充実を図ることが、本来議会としての運営の基本である。
- ・住民自治は議会にあり。議会は住民自治の根幹でなければならない。



報  
告  
内  
容

②問題提起：「住民自治の根幹としての議会

～議会からの政策サイクルの作動と成熟度評価～

講師：江藤俊昭 大正大学社会共生学部教授

○視点1 戦略プラン

- ①理想的な姿の構想
- ②課題の明確化
- ③課題解決の具現化

○視点2 政策サイクル

- ①住民との対話
- ②議員間の討議
- ③政策立案・提言、議案審査
- ④総合計画、政策評価、予算・決算の連動

○視点3 条件整備

- ①能力向上
- ②体制づくりと活動基盤整備
- ③内部資源と外部連携の活用

○視点4 信頼と責任

- ①法令等遵守
- ②情報公開と説明責任
- ③危機管理
- ④主権者教育と選挙の充実

○視点5 振り返りと学び

- ①振り返りの取り組み方
- ②振り返りの結果の活用

- ・政策サイクルは、個々の議員の評価ではなく、議会としての評価とする。議員の評価は選挙で行われるが、機関としての議会をどのように評価して進めていくのか。
- ・このコロナ禍だからこそ、今までの議会のやり方が見直されている。

一般質問の中止  
傍聴中止



何に影響するのか

議会 BCP 制定・改定  
オンライン委員会



議会を止めない

- ・住民の困っている事を聞いて、その情報を行政に提供、提言する。
- ・住民自治の権限は全て選挙で選ばれた議会にある。
- ・決算をしっかりと見極めて審査することで、予算へと繋ぐことができる。

③活動報告：「地方議会改革プロジェクトの取り組みと地方議会成熟度評価モデルの概要」

報告者：鎌田朋弘 日本生産本部 顧客価値創造センター担当課長

報  
告  
内  
容  
・  
ま  
と  
め

・我が国では、執行する機関に対して公開で議論することが大切であり、そのため議会の役割は大きい。

・議会から政策サイクルを回し、住民福祉の向上を高めてほしい。

④事例報告 1：「会津若松市議会における地方議会成熟度評価モデルの取り組みについて」

報告者：目黒章三郎 会津若松市議会議員

2：「地方議会成熟度評価モデルの導入と新議会改革・運営ビジョンの制定」

報告者：井坪隆 飯田市議会議員

・住民との対話 = 地区別意見交換会（5月、11月 年2回開催）

・意見交換会で出された意見を基点として、広報広聴委員会で分類し各常任委員会に振り分ける。

・委員会ではテーマを設定し、講師を招き講演会等を開催し、先進地行政視察や調査研究を行い、整理したのち議員間討議を進める。

3 まとめ

・行政に対する評価は、議会や監査で日常的にチェックを行うことは可能だが、議会を評価できるのは選挙でしかないとの指摘があった。一般的には4年間は評価されないとすれば、セルフにてチェックすることが必要である。そのためには、セルフチェックするための自己研鑽を積むことが重要となる。

・「チーム議会」を目指すには、議会改革だけではなく執行部の改革も必要となる。共に、一歩先を見ていく必要がある。政策を実現する方法として、目的→政策→事務事業のトップダウンの方式と、事務事業→政策→目的のボトムアップ方式がある。議会側では目的を示していくが、執行部側から見ると事務事業から行うことが通常である。どちらが正しいとはいえないが、見方を変えることでそれぞれが進めあえば、政策は実現しやすくなるを考える。

・地方議会評価モデルとして、下記の事を自己評価できるようにしていく仕組みを整えていくことが大事。

○戦略プラン — 理想的な姿の構想と具現化

○政策サイクル — 議会活動の基本的な要素

○条件整備 — 議会が能力を発揮する基盤

○信頼と責任 — 信頼を得るための取組み

○ふり返りと学び — さらなる改革への取組み

・コロナ禍で気づかされたことは、「議会を止めない」。市民が困っている時だからこそ、住民福祉のために議論、議員間討議をしっかり行い議会を止めないことが大切と感じた。



--	--